

# Mechanical Suit

代表者 村木 雄太 (工学 B2)

## 1. プロジェクト概要

本プロジェクトは外部動力を必要としない、歩行及び走行を補助するアシストスーツの研究・制作を目的とする。コンセプトとして、格好だけでなく安価で実用性のあるものを目指している。

## 2～5

申請者からの依頼により一時的に非公開とする。

## 6. プロジェクトを通しての感想

昔、上達度の法則という本を読んだことがある。その本によれば、上達度は全体的にはべき乗則に従い、マイクロで見れば、その中にいくつもの波があり、波の予測は不可能であるらしい。本を読んだ当時は何となくしか理解していなかったが、振り返ると、このプロジェクトでもそれは起きていた。初期型のアシストスーツはサクサク作れて、最初からある程度の性能があった。しかし、このプロジェクトを始めてから、アシストスーツは技術が揃うまでなかなかまとまものが完成しなかった。このことをその本ではスランプと呼んでいた。私は上手くいっていない時、ほんとにこれが上手くいくのかどうか不安だった

この本で、強く述べられていたことはもう一つあって、「現実の問題の成果は唐突に表れる」らしい。確かにそういえばそうだった。全くうまくいか分からず少しイヤになっていたある日、たった1つの技術を導入したとたん、プロジェクトは上手く進みだした。その本はまたしても私の未来を言い当てていたのだ。

パズルはだんだんとパズルの絵が完成していく様子が見えて、だんだんと上手くいくことが分かる。しかし、現実の問題はパズルほど短くクリアできるものではなく、徐々に上手くいくのはあくまでマクロ視点であり、主観的に見られるのはあくまでマイクロ視点であるから、徐々に上手くいっているようには見えづらい。だから私もちょっとプロジェクトが嫌になっていた。けれども、支援していただいているし、ということでやり続けていたら暗闇の荒野を抜けた。

この法則を本当の意味で理解できたことが私にとっての最も大きな成果だと思っている。

他の感想も幾つかあるが、それはまあ楽しかった、という言葉でまとめられる。4年生でもないのに、研究室に何度も行ったり、先生に何度も相談したりするのは、このようなおもしろプロジェクトという名分がなければできなかった。非常に貴重で楽しい時間を過ごさせてもらいました。